

## 成長期

ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、  
UNHCR  
バンニャ・ルカ事務所

## 保護官のある一日

伊藤礼樹

## 1997年3月某日

軽い二日酔いで5時半起床。昨晚遅くまで、シュリボを飲みながらクロアチアからの難民ペロとチトーの社会主義について語りすぎた。彼はチトーの時代はよかったと言う。

今日は、バンニャ・ルカからボスニア西部のドルバーへのUNHCRバス路線がオープンする日だ。紛争中から紛争後にかけて、各民族が多数を占める地域間での自由な往来も、セルビア系、クロアチア系、イスラム系ボスニア人同士の交流もほとんど無くなってしまった。そんな中UNHCRは、民族間の交流と信頼の再構築を支援することによって難民、国内避難民の帰還を促そうと、各民族がそれぞれ多数を占める地域間に無料のバスを走らせることにしたのだ。

UNHCRが手配した小型バスに年長いたセルビア人国内避難民が6人だけ乗った。2年前ドルバーの家を追われたが、このバスを使って日帰り故郷の様子を見に行くのだという。今自分の家がどうなっているのか知りたいし、墓参りにも行きたいという。6人全員が怖がっている。バンニャ・ルカのセルビア系政治家たちは、ドルバーに行けばセルビア人はクロアチア人に殺されると恐怖を煽っているし、ドルバーのクロアチア系政治家はセルビア系元住民の訪問は許されるべきではないとラジオで連呼してきた。怖さを和らげるため、6人は車内でシュリボを回し飲みしていた。私はUNHCRの車に乗り、バスの先導をする。

ボスニアの紛争以前は人口の97%以上を占めていたドルバーのセルビア系住民は、紛争の末期、クロアチア軍、ボスニア系クロアチア人民兵組織、ボスニア軍によって駆逐された。今は住

民のほとんどが中部ボスニアから組織的に移住してきたボスニア系クロアチア人だ。彼らの中にも、紛争で家を追われた国内避難民が少なくない。

町の入り口にSFOR（多国籍平和安定軍）カナダ軍の装甲車が地元のクロアチア系警察と待っていた。6人の乗る小型バスを、装甲車一台、パトカー2台、国連関係車両など合計7台が先導、護衛している。ドルバーの町の緊張感をひしひしと感じた。年長いたセルビア人たちが恐る恐るバスを降り、顔をこぼらせながら2年前去った自分の家を目指した。そのうちの一人ミレが、自分の家に行きたいが怖いからついてきてくれ、と言った。私は怖い承諾した。

ミレは自分の家の前に止まった。私が呼び鈴を押すと中から40歳ぐらいのクロアチア系の男が出てきた。「スモモの木を大事にしてくれてありがとう」と、庭の木をさしながらミレはその男に言った。「私は、イヴィツァといいます。この木はあなたのものだし、この家もそうです。でも中部ボスニアの自分の家は焼かれてしまって帰るところがありません」。男は答えながら我々を家に招き入れた。質素な家はきれいに整頓されていた。イヴィツァの妻はどろどろとしたバルカン特有のトルココーヒーをミレ、私、私のセルビア人アシスタントに入れてくれた。コーヒーを口にすると、ミレの緊張した顔から笑みがこぼれた。その後、コーヒーがシュリボに変わり、イヴィツァもミレも私も酔った。

帰りのバスに乗り込む時、ミレはろれつ回らない口で言った「イヴィツァも俺も同じ戦争の被害者だ。俺は家がまだあるからいい。イヴィツァは帰る家を失ったのだから」と。

## 2000年5月某日

バス路線の開設から3年、バンニャ・ルカからジュネーブに転勤して6ヶ月。緒方高等弁務官のイニシアチブで始まったImagine Coexistence（共生の創造）プロジェクト開拓のため、ジュネーブからドルバーに出張。あれ以来、ドルバーではいろいろなことがあった。あまりにも早いセルビア人の帰還に怒ったクロアチア勢力側の政治家が暴動を扇動し、UNHCRの事務所が焼き討ちにもあった。帰還したセルビア人の老夫婦が銃で背後から撃たれて殺されたりもした。でも、人々の帰還への決心は強く、今ではセルビア人の帰還民の方がクロアチ系住民よりも多くなっていった。

時間があったので、ミレの家を訪ねた。彼は帰っていた。あのバスでの日帰り以来何度もドルバーに足を運んだそう。彼の家に住んでいたイヴィツァは、UNHCRの住居再建プロジェクトで自分の家を建て直した。中部ボスニアの自分の町に帰る前、わざわざミレに電話をかけて知らせてくれたという。ミレは、イヴィツァの帰還と同時に故郷へ戻ってきたそう。

ミレは庭のスモモからつくったシュリボを注いでくれた。また酔っ払ってしまった。



## Profile

(いとう あやき)  
1966年生まれ。米国カールトン大学、コロンビア大学大学院卒。UNVとしてボスニアにおけるUNHCRの活動に参加。JPOでミャンマーにおける難民の帰還活動に従事した後、ルワンダ、ボスニア、ジュネーブ、アルメニア、ハルツームでの勤務を経て、国連世界食糧計画(WFP)日本事務所へ外向。現在はUNHCRレバノン事務所勤務。